

電事連会長 交代会見要旨

(2019年6月14日)

【勝野会長挨拶】

先月の会見でご報告いたしました通り、私は、本日をもちまして、電事連会長を退任し、後任の会長を関西電力の岩根社長にお願いすることといたしました。

2016年6月の電事連会長就任時に、「電力業界を取り巻く課題は山積しているが、電気事業の発展に微力ながら力を尽くしていく」と申し上げましたが、その言葉通り、この3年間は、電力業界にとって、大きな変革期にありました。

特に、電力業界にとって重要な課題である原子力の信頼回復や電力システム改革への対応に加え、昨年自然災害を踏まえた電力レジリエンスの強化や安定供給の確保など、目の前の課題一つひとつに対し、電力各社の社長と力を合わせ、業界一丸となって取り組んでまいりました。

先月の会長会見の場でもご質問にお答えしましたが、来年4月に予定している送配電部門の法的分離への対応や、電力需給の改善、原子力発電所の再稼働や原子燃料サイクルの事業環境整備など、電力システム改革を進めるにあたり、電力業界として解決すべき課題に、一定の目途をつけることができたのではないかと考えております。

原子力の信頼回復に向けた取り組みをはじめ、やり残したこともありますが、本日をもって電事連会長を退任し、後を岩根新会長に託したいと思っております。

申し上げるまでもありませんが、岩根新会長は、電力業界全体に精通されていることに加え、強いリーダーシップをお持ちであることから、困難な課題が山積している現在の電力業界にあって、舵取りを託すにはまさに適任であると確信しております。

新会長を、是非とも宜しく願いいたします。

最後になりますが、皆さまには大変お世話になりました。

この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

【岩根新会長挨拶】

ただいまご紹介いただきました、関西電力の岩根でございます。このたび、電気事業連合会会長を拝命いたしました。

皆さまには、これまでも大変お世話になっておりますが、引き続き、どうぞよろしくお願い申し上げます。

今回退任される勝野会長には、電気事業を取り巻く課題が山積するなか、優れた判断力と統率力をもって、大きな変革期にある電力業界をリードしていただきました。

勝野会長のこれまでのご苦勞とご功績に、心より敬意を表するとともに、引き続きお力添えをいただきたいと思います。

原子力の信頼回復や早期の再稼働、廃炉、原子燃料サイクル、電力システム改革、地球温暖化対策など、今後も様々な課題が山積するなかで、勝野会長の後を引き継ぎ、電事連会長という大役を務めることになり、その責任の重さに身の引き締まる思いであります。

原子力に関しましては、引き続き、一日も早い再稼働に向け、審査に真摯に対応するとともに、自主的かつ継続的な安全性確保に取り組んでまいります。

また、エネルギー基本計画において「実用段階にある脱炭素化の選択肢」と位置づけられていることを踏まえ、人材育成や技術開発を強化しつつ、安全性や経済性の追求に絶えず挑戦することで、将来の新增設・リプレースにも備えてまいります。

加えて、原子燃料サイクルや廃炉といった共通する課題についても、関係事業者間の連携を深め、知恵を出し合いながら取り組んでまいります。

一方で、中長期的に必要な電源を確保・維持するための新たな市場整備や、

送配電ネットワークの次世代化に向けた託送料金制度の見直し議論が進められておりますが、電源とネットワークのそれぞれにおいて、適切な投資が行える環境を早急に整備することが不可欠と考えております。

将来にわたり、安定供給と「S+3E」を実現していくためにも、これらの検討には積極的に協力してまいります。

今後、電力各社の社長と力を合わせて、こうした諸課題を少しでも解決し、電気事業の発展を通じて我が国の経済や国民生活の向上に貢献できるよう、微力ながら全身全霊で取り組んでまいり所存でございます。

どうぞ宜しくお願い申し上げます。

以 上